Miura H, Kariyasu M, Yamasaki K, Sumi Y. Physical, mental and social factors affecting self-rated verbal communication among elderly individuals. Geriatrics Gerontol Int 2004 (in press).

Arai Y, Kumamoto K, Washio M, Ueda T, Miura H, Kudo K. Factors related to feelings of burden among caregivers looking after impaired elderly in Japan under the Long-Term Care Insurance system. Psychiatry Cli Neurosci 2004 (in press).

Isogai E, Hirata M, Isogai H, Matuso K, Watari S, Miura H, Oguma K. Antimicrobial and lipoplysaccharide-binding activities of C-terminal domain of human CAP18 peptides to Genus Leptospira. J Appl Res Vet Med 2004 (in press).

Arai K, Sumi Y, Uematsu H, Miura H. Association between dental health behaviour, mental/physical function and self-feeding ability among the elderly. Gerodontology 2003; 20: 78-83.

Miura H, Yamasaki K, Kariyasu M, Miura K, Sumi Y. Relationship between cognitive function and mastication in elderly females. J Oral Rehabil 2003; 30: 808-811.

三浦宏子. 歯・口腔の健康とクオリティ・オブ・ライフ (QOL). 8020 推進財団会誌 2004 (印刷中).

三浦宏子、苅安誠、山崎きよ子、荒井由美子. 虚弱老人における摂食・嚥下障害に関するケアアセスメント. 日本老年医学会誌 2004 (印刷中).

道脇幸博、角保徳、三浦宏子、永長周一郎. 要介護高齢者に対する口腔ケアの費用効果分析. 老年歯科医学 2003 ; 17 : 275-280.

冨森絵美子、岩代哲、松田隆治、浜島善次郎、小川敬之、苅安誠、三浦宏子、福本安甫. 坐位姿勢が摂食・嚥下機能に与える影響. 九州保健福祉大学研究紀要 2003 ; 4 : 185-190.

2. 著書

なし

3. 学会発表

三浦宏子, 苅安誠, 山崎きよ子, 荒井由美子, 角保徳. 高齢者の咬合力変化と全身の健康状態との関連性-縦断調査による疫学的検討-. 第 14 回日本老年歯科医学会. 2003 年 6 月 18-20 日, 名古屋.

熊本圭吾, 荒井由美子, 上田照子, 鷲尾昌一, 三浦宏子, 工藤啓. 日本語版 Zarit 介護負担尺度短縮版 (J-ZBI_8) の交差妥当性の検討. 第 45 回日本老年医学会総会. 2003 年 6 月 18 日-20 日, 名古屋.

三浦宏子, 苅安誠, 山崎きよ子, 水谷博幸, 角保徳. 虚弱老人における摂食・嚥下障害と口腔清掃状況. 第 52 回日本口腔衛生学会総会. 2003 年 9 月 25-27 日, 北九州.

三浦宏子，山崎きよ子，荒井由美子．虚弱老人における摂食・嚥下障害のリスク評価．第62回日本公衆衛生学会総会．2003年10月22-24日，京都．

熊本圭吾，荒井由美子，工藤啓，三浦宏子，上田照子，鷲尾昌一．日本語版Zarit介護負担感尺度短縮版（J-ZBI_8）下位尺度の検討．第62回日本公衆衛生学会総会．2003年10月22-24日，京都．

児玉千加子，三浦宏子．学童等成長期の咬合力推移　咬合力による学校保健の連携（第1報）．第62回日本公衆衛生学会総会．2003年10月22-24日，京都．

三浦宏子，山崎きよ子，苅安誠，荒井由美子．高齢者の知的機能と咀嚼機能との関連性．第12回日本老年歯科医学会学術大会．2001年6月13-15日，大阪．

H．知的財産権の出願・登録状況
1．特許取得，2．実用新案登録，
3．その他，特記すべきことなし．

表1　要介護高齢者の属性（85名）

項目	平均±標準偏差 または人数(%)
性別	
男性	27 人（31.8%）
女性	58 人（68.2%）
年齢（年）	80.8±7.6
介護保険利用	
要支援	12 人（14.1%）
要介護度1	13 人（15.3%）
要介護度2	20 人（23.5%）
要介護度3	20 人（23.5%）
要介護度4	14 人（16.5%）
要介護度5	6 人（7.1%）

表2　介護者の属性（85名）

項目	平均±標準偏差 または人数(%)
性別	
男性	19 人（22.4%）
女性	66 人（77.6%）
年齢（年）	64.3±12.9
続柄	
配偶者	25 人（29.4%）
子	29 人（34.1%）
子の配偶者	20 人（23.5%）
その他	11 人（12.9%）

表3. 要介護者の主観的言語コミュニケーション満足度と要介護者自身の健康状態ならびに基本属性との関連性

要介護者の特性	要介護者の主観的言語コミュニケーション		p値
	満足群(N=70)	不満足群(N=15)	
年齢	81.33±7.49[5]	80.71±7.75	NS[7]
HDS-R[1]	15.24±7.99	12.30±7.44	NS
嚥下スコア[2]	7.27±5.68	10.67±5.13	0.02
ADL20[3]	40.12±14.98	24.44±18.85	0.00
意志の伝達能[4]	2.77±0.59	2.36±1.01	NS
情報の理解能[4]	2.82±0.54	2.23±0.93	0.04
介護サービス利用数	1.67±1.12	1.78±1.52	NS
性別			
男性	19人 (70.4%)[6]	8人 (29.6%)	NS
女性	52人 (89.7%)	6人 (10.3%)	
要介護度			
要支援	10人 (83.3%)	2人 (16.7%)	NS
要介護度1	12人 (92.3%)	1人 (7.7%)	
2	16人 (80.0%)	4人 (20.0%)	
3	14人 (70.0%)	6人 (30.0%)	
4	7人 (50.0%)	7人 (50.0%)	
5	4人 (66.7%)	2人 (33.3%)	

1) HDS-R：改訂版長谷川式簡易知能評価スケールによるスコア

2) 嚥下スコア：18項目の摂食・嚥下機能について、それぞれ0～2点で評価し、計36点満点としたスコア。

3) ADL20：江藤らが開発した日常生活機能に関するスコア。下位項目に後述するコミュニケーションに関する生活機能を含む。

4) ADL20の下位項目のひとつ。コミュニケーションに関する機能評価。

5) 平均±標準偏差。2群間の比較はt検定かWelch検定を使用。

6) 該当人数（パーセント）、2群間の比較はχ^2検定を使用。

7) NS: not significant。

表4. 要介護者の言語コミュニケーション満足度とその介護者の介護負担感、QOL ならびに基本属性との関連性

介護者の特性	要介護者の主観的言語コミュニケーション		p値
	満足群(N=70)	不満足群(N=15)	
年齢	65.77±12.54[3]	64.69±13.03	NS[5]
SF-36 スコア[1]			
身体機能	73.61±23.82	65.97±33.94	NS
身体的日常役割機能	58.21±42.50	71.67±36.43	NS
精神的日常役割機能	56.06±45.35	75.00±39.44	NS
全体的健康感	53.05±20.27	55.67±16.55	NS
社会生活機能	72.89±26.05	74.22±15.46	NS
体の痛み	61.31±24.06	58.56±22.92	NS
活力	59.85±24.61	54.06±22.75	NS
心の健康	62.39±22.06	65.33±25.10	NS
J-ZBI_8[2]	10.16±7.16	11.88±7.70	NS
介護に要する時間(時間/日)	6.34±6.77	7.32±6.99	NS
自由に外出できる時間(時間/日)	4.21±5.71	3.61±2.66	NS
今までの介護期間(年)	4.94±5.42	6.17±6.94	NS
続柄			
配偶者	20 人 (76.9%)[4]	6 人 (23.1%)	NS
子	22 人 (75.9%)	7 人 (24.1%)	
子の配偶者	15 人 (75.0%)	5 人 (25.0%)	
その他	9 人 (90.0%)	1 人 (10.0%)	

1) 福原らの SF-36 日本語版を使用。下位項目に、身体機能、身体的日常役割機能、精神的日常役割機能、全体的健康感、社会生活機能、体の痛み、活力、心の健康の8つを含む。

2) 荒井らの Zarit 介護負担感尺度日本語短縮版にて評価。

3) 平均±標準偏差。2群間の比較は t 検定か Welch 検定を使用。

4) 該当人数(パーセント)、2群間の比較は Fisher の直接確率検定を使用。

5) NS: not significant。

表5. 介護者の主観的言語コミュニケーション満足度と要介護者自身の健康状態ならびに基本属性との関連性

要介護者の特性	介護者の言語コミュニケーション自己評価		p値
	満足群(N=47)	不満足群(N=38)	
年齢	81.76±7.54[5]	79.39±7.53	NS[7]
HDS-R[1]	14.73±8.44	13.25±7.52	NS
嚥下スコア[2]	7.38±5.47	8.39±5.93	NS
ADL20[3]	34.44±16.26	38.00±18.14	NS
意志の伝達能4)	2.65±0.81	2.56±0.84	NS
情報の理解能4)	2.72±0.66	2.67±0.72	NS
介護サービス利用数	1.75±1.04	1.81±1.27	NS
性別			
男性	10人 (37.0%)[6]	17人 (63.0%)	0.02
女性	38人 (65.5%)	20人 (34.5%)	
要介護度			
要支援	6人 (50.0%)	6人 (50.0%)	NS
要介護度1	10人 (76.9%)	3人 (23.1%)	
2	10人 (50.0%)	10人 (50.0%)	
3	13人 (65.0%)	7人 (35.0%)	
4	7人 (50.0%)	7人 (50.0%)	
5	3人 (50.0%)	3人 (50.0%)	

1) HDS-R：改訂版長谷川式簡易知能評価スケールによるスコア

2) 嚥下スコア：18項目の摂食・嚥下機能について、それぞれ0～2点で評価し、計36点満点としたスコア。

3) ADL20：江藤らが開発した日常生活機能に関するスコア。下位項目に後述するコミュニケーションに関する生活機能を含む。

4) ADL20の下位項目のひとつ。コミュニケーションに関する機能評価。

5) 平均±標準偏差。2群間の比較はt検定かWelch検定を使用。

6) 該当人数（パーセント）、2群間の比較はχ^2検定を使用。

7) NS：not significant。

表6. 介護者の主観的言語コミュニケーション満足度と介護者自身の介護負担感、QOL ならびに基本属性との関連性

介護者の特性	介護者の主観的言語コミュニケーション		p値
	満足群(N=47)	不満足群(N=38)	
年齢	65.76±12.06[3]	65.49±13.60	NS[5]
SF-36 スコア[1]			
身体機能	72.69±26.94	70.51±26.94	NS
身体的日常役割機能	64.76±41.37	56.76±41.52	NS
精神的日常役割機能	63.12±43.54	56.14±46.57	NS
全体的健康感	59.12±19.20	46.44±19.26	0.004
社会生活機能	76.50±22.54	68.42±27.38	NS
体の痛み	63.33±24.75	55.39±23.45	NS
活力	65.51±22.07	49.28±25.90	0.003
心の健康	68.87±21.45	54.77±23.86	0.007
J-ZBI_8[2]	8.37±5.73	13.66±7.85	0.001
介護に要する時間(時間/日)	6.36±6.19	6.81±7.51	NS
自由に外出できる時間(時間/日)	4.43±5.79	3.84±4.40	NS
今までの介護期間(年)	4.56±4.35	5.72±6.96	NS
続柄			
配偶者	15 人 (57.7%)[4]	11 人 (42.3%)	NS
子	16 人 (55.2%)	13 人 (44.8%)	
子の配偶者	14 人 (70.0%)	6 人 (20.0%)	
その他	5 人 (50.0%)	5 人 (50.0%)	

1) 福原らの SF-36 日本語版を使用。下位項目に、身体機能、身体的日常役割機能、精神的日常役割機能、全体的健康感、社会生活機能、体の痛み、活力、心の健康の8つを含む。

2) 荒井らの Zarit 介護負担感尺度日本語短縮版にて評価。

3) 平均±標準偏差。2群間の比較は t 検定か Welch 検定を使用。

4) 該当人数(パーセント)、2群間の比較は Fisher の直接確率検定を使用。

5) NS: not significant。

別紙5　研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
荒井由美子	精神障害の現状と動向.	鈴木庄亮 久道茂	シンプル衛生公衆衛生学2003	南江堂	東京	2003	295-305
荒井由美子	介護負担-現状と対策-.	柳澤信夫	老年期痴呆の克服をめざして	長寿科学振興財団	東京	2003	239-299
荒井由美子	介護保険がはじまって介護負担はどう変わったか.	柳澤信夫	健やかに老いるために2002	長寿科学振興財団	東京	2003	50-51
荒井由美子 熊本圭吾	高齢者リハビリテーションと介護.	武田雅俊	老年精神医学の専門医のために	ワールドプランニング	東京	2004	印刷中
荒井由美子	在宅介護者の抱える諸問題.	上島国利	精神障害の臨床	日本医師会	東京	2004	印刷中
荒井由美子	Zarit介護負担度日本語版：J-ZBI.	福地義之助	MOOK・高齢者ケアマニュアル			2004	印刷中
荒井由美子	精神障害の現状と動向.	鈴木庄亮 久道茂	シンプル衛生公衆衛生学2004	南江堂	東京	2004	239-303

雑誌

Arai Y, Ueda T	Paradox revisited: still no direct connection between hours of care and caregiver burden.	Int J Geriatr Psychiatry	18 (2)	188-189	2003
Arai Y, Zarit SH, Kumamoto K, Takeda A	Are there inequities in the assessment of dementia under Japan's LTC insurance system?	Int J Geriatr Psychiatry	18	346-352	2003
Washio M, Inoue H, Kiyohara C, Matsumoto K, Koto H, Nakanishi Y, Arai Y, Mori M	Depression among caregivers of patients with chronic obstructive pulmonary disease.	Int Med J	10 (4)	255-259	2003
Washio M, Oura A, Arai Y, Mori M	Depression among caregivers of the frail elderly:Three years after the introducation of the Pubulic Long-Term Care insurance for the elderly.	Int Med J	10 (3)	179-183	2003

Miura H, Yamasaki K, Kariyasu M, Miura K, Sumi Y.	Relationship between cognitive function and mastication in elderly females.	J Oral Rehabil	30	808-811	2003
Arai Y, Kumamoto K, Washio M, Ueda T, Miura H, Kudo K	Factors related to feelings of burden among caregivers looking after impaired elderly in Japan under the Long-Term Care Insurance system.	Psychiatry Clin Neurosci	58 (4)	in press	2004
Arai Y, Kumamoto K, Washio M	Assessment of family caregiver burden in the context of the LTC insurance system: J-ZBI.	Geriatrics & Gerontology Internatioanal		in press	2004
Miura H, Kariyasu M, Yamasaki K, Sumi Y.	Physical, mental and social factors affecting self-rated verbal communication among elderly individuals.	Geriatrics Gerontol. Int.		in press	2004
Arai K, Sumi Y, Uematsu H, Miura H.	Association between dental health behaviour, mental/physical function and self-feeding ability among the elderly.	Gerodontology	20	78-83	2003
荒井由美子, 熊本圭吾	高齢者リハビリテーションと介護.	老年精神医学雑誌	14 (3)	367-375	2003
荒井由美子	介護負担についての調査研究の現状.	医事新報	4117	112-113	2003
荒井由美子, 田宮菜奈子, 矢野栄二	Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版 (J-ZBI_8) の作成：その信頼性と妥当性に関する検討.	日本老年医学会雑誌	40 (5)	471-477	2003
鷲尾昌一, 荒井由美子, 和泉比佐子, 森満	介護保険制度導入１年後における福岡県遠賀地区の要介護高齢者を介護する家族の介護負担感：Zarit 介護負担尺度日本語版による検討.	日本老年医学会雑誌	40 (2)	147-155	2003
工藤　啓, 右田周平, 菅沼　靖, 荒井由美子	地域ケアシステム構築の手法について―企画書と計画書の重要性―	公衆衛生	67 (6)	449-451	2003
増井香織, 荒井由美子, 鷲尾昌一, 工藤啓	介護保険制度導入直後の介護負担の変化―要介護度, サービス利用との関連―.	保健婦雑誌	59 (11)	1060-1065	2003
松鵜甲枝, 鷲尾昌一, 荒井由美子, 朔義亮, 井手三郎	訪問看護サービスを利用している在宅要介護高齢者の主介護者の介護負担―福岡県南部の都市部の調査より―	臨床と研究	80 (9)	1687-1690	2003
鷲尾昌一	介護負担に関する問題点、高齢者の医療・福祉分野における疫学研究から.	日本医事新報	411	73-74	2003
鷲尾昌一、和泉比佐子、岡田　薫、森　満.	高齢者のケアとＭＲＳＡ.	訪問看護と介護	8	581-584	2003
道脇博幸, 角保徳, 三浦宏子, 永長周一郎.	要介護高齢者に対する口腔ケアの費用効果分析.	老年歯科医学	17	275-280	2003
富森絵美子, 岩城哲, 松田隆治, 浜島善次郎, 小川敬之, 苅安誠, 三浦宏子, 福本安甫.	坐位姿勢が摂食・嚥下機能に与える影響-症例検討を通して-.	九州保健福祉大学研究紀要	4	185-190	2003

荒井由美子	Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版(J-ZBI_8)の開発について.	Gp net	50(11)	22-23	2004
荒井由美子, 工藤　啓	Zarit 介護負担尺度日本語版(J-ZBI)および短縮版(J-ZBI_8).	公衆衛生	68(2)	125-127	2004
山崎律子, 鷲尾昌一, 荒井由美子, 井手三郎	大都市における訪問看護サービス利用者の公的サービスの利用状況と介護者の負担感－福岡市の一訪問看護ステーションの調査より－.	臨床と研究	81(1)	115-119	2004
荒井由美子	介護負担の評価	日本臨床		印刷中	2004
熊本圭吾, 荒井由美子, 上田照子, 鷲尾昌一	日本語版 Zarit 介護負担尺度短縮版(J-ZBI_8)の交差妥当性の検討.	日本老年医学会雑誌	41(2)	印刷中	2004
荒井由美子	Geriatric Assessment.	ジェロントロジーニューホライズン	16(2)	印刷中	2003
三浦宏子, 苅安誠, 山崎きよ子, 荒井由美子	虚弱老人における摂食・嚥下障害に関するケアアセスメント.	日本老年医学会雑誌	41(2)	印刷中	2004
三浦宏子	歯・口腔の健康とクオリティ・オブ・ライフ（QOL）.	8020 推進財団会誌		印刷中	2004

20030185

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。